

第2章 旧病院解体と跡地活用

「潤いの拠点」に「パークPFI」

平成27年2月、市は市立病院跡地の活用について、緑を楽しみながらイベントも開催できる「緑地」として活用する構想を明らかにした。27年度の当初予算案で、現病院の解体工事費など7億4481万円を計上。解体・整地終了後に土地取得し、その後整備にかかるとした。

緑地は、人が集まる芝生広場に加えて、樹木が茂った木陰のある「潤いの拠点」としての空間を想定。法的に公園とするかどうかは未定とした。市は26年7月、病院敷地が中心市街地活性化基本計画の区域内で、まちづくりへの有効活用が見込めるとして購入方針を発表。JR鹿児島中央駅と天文館をつなぐ連結点としての機能や、周辺の民間開発の状況を見ながら活用法を検討していた。

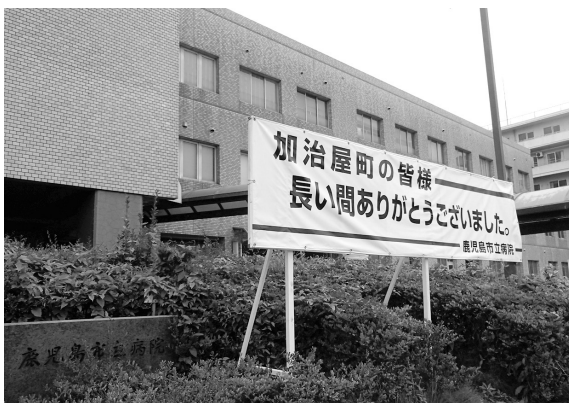
29年4月になって、市は整備する緑地1・37畝について基本計画の素案を公表。約1カ月間にわたってパブリックコメントを募った。素案では、カフェなどの景観に憩いの場と駐車場の建設・運営を民間事業者に任せる構想。パブリックコメントを経て、市は、経費縮減や利用者へのサービス充実を狙い、整備緑地に民間資金やアイデアをフル活用するパークPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）を導入する方針を表明した。

1年4カ月かけ解体

新市立病院開院から約5か月後の平成27年10月、加治屋町の「旧病院」解体工事が始まった。

旧病院の建設は、戦後のモノ不足時代から始まっている。昭和23年9月25日、加治屋町（当時・樋之口町）に建設した木造平屋建ての第一病棟（74床）と放射線棟の建物は、旧海軍郡元航空隊兵舎の払い下げを受けて建てられた。翌10月11日から診療をスタート。24年からは第二病棟、管理棟（木造2階建て）、さらに翌年第一外来診療棟が建設されるなど30年頃までに木造による病院建設が完了した。その後、35年から鉄筋化の整備計画が進められ、「慈愛像」建立（58年）で旧病院の「4号館」までの姿がほぼ出来上がり、後に「救命救急センター棟」等が整備される。

解体時の施設（26年4月1日現在）は、敷地1万5863平方 m 、延べ床面積3万9971平方 m 。敷地内には地上7階、地下1階の「本館」（1万5853平方 m ）をはじめ「1号館」（地上5階、地下1階）「2号館」（地上6階）「3号館」（同）「4号館」（地上3階、地下1階）「5号館」（地上4階）、「救命救急センター棟」（地上8階、地下1階）「職員寮」（地上3階）のほかプレハブ棟



解体前の旧市立病院

(地上2階)、立体駐車場、ポンプ室棟ほか5棟、駐車場(第一、第二)が建設されていた。

跡地処分検討委員会が市立病院事務局長を委員長に設置され、平成25年7月から6回開催。「跡地の売却は公共による活用を優先する」「解体工事は分割発注が望ましい」等の意見をまとめた。工事は、着工から1年4カ月後の29年2月に完了し、約70年ぶりに病院跡地は更地になった。市立病院は翌3月、跡地を鹿児島市に売却した。

タイムカプセル出現

旧病院の解体工事が始まって2カ月後の平成27年12月、3号館の定礎石奥から「タイムカプセル」が見つかり、37年前の資料や写真に工事関係者らの注目が集まった。

上高原勝美第3代院長の署名入りの「定礎の辞」をはじめ、資料表紙には「鹿児島市立病院第2次整備事業完了に伴い、次の資料を調製し、タイムカプセルに収める」として、「3号館図面」「診療各科責任者一覧」「経営概況」などが記される。このほか照国神社のお札、工事関係者らが並ぶ定礎式写真、当日付の南日本新聞紙面が、銅製の定礎箱の中に収められていた。新聞や写真はやや黄ばんでいたものの、墨字で書かれた資料に変色はほとんどなく、内容も鮮明だった。

駐車場跡には国際交流センター

平成28年3月、鹿児島県は旧市立病院（加治屋町）の立体駐車場跡地に、外国人留学生の宿泊や外国人との交流の場となる「国際交流センター」（仮称）を建設する構想を明らかにした。29年度に着工、31年度中の完成を目指す。

予定地選定の理由は①一定の広さの用地を確保できる②留学中の活動拠点として大学へのアクセスがよい③交通の利便性に優れている―ことを挙げた。施設の延べ床面積は約4000平方メートル。うち宿泊施設3000平方メートル、交流施設1000平方メートル程度を想定する。宿泊施設には、留学生や短期滞在者用の部屋80〜90室程度を設ける。交流施設は多目的ホールや調理室、交流ラウンジ、和室などで構成。整備主体の県、鹿児島市、国際交流団体の関係者らでつくる建設協議会が今後、施設の管理運営主体、運営方法などを検討する。土地取得費を含めた建設資金は、鹿児島市出身で京セラ名誉会長の稲盛和夫氏が県と市に寄付した20億円。

病院跡地に「大河ドラマ館」

平成29年2月、鹿児島市は市立病院跡地の当面の利用について、30年1月から始まるNHK大河ドラマ「西郷どん」の放映に合わせて、県などと実行委員会をつくり「大河ドラマ館」を建設、約1年の期限付

きで開館することを発表した。

同年6月に発足した推進協議会では、ドラマPRと観光客の呼び込みを目指し、来館者50万人を目標にするなどが決まった。館の名称は「西郷どん 大河ドラマ館」。延べ床面積約10000平方メートルで展示室、特産品販売所、観光案内などを設ける。開館期間は30年1月13日から31年1月14日までの367日間で年中無休。駐車場、イベント広場も整備し、カゴシマシティビューの停車所を新設する。29年8月着工、12月に完成予定。予算は29、30年度で総額4億7000万円、入場料収入を2億5000万円と見込んだ。跡地を緑地に整備するため、開館期間は延長しない。



旧病院跡地に開設された大河ドラマ館